

いのちのお米

和庄小学校 三年 青野 百か

ある時、お母さんがわたしに育じ日記を見
せてくれました。

育じ日記には、わたしが生まれてからの様
子が毎日書かれています。

お母さんが育じ日記を見ながら、
「のみ物以外ではじめて口に
した物はお米な
んだよ。」

と教えてくれました。

わたしは、

「どうしてお米なの。食べ物なら何でもいい
じゃない。」

と、思いました。

お母さんは、生後五ヶ月のわたしがはじめ
て口にする食べ物だからと、体にやさしいお
米をえらんだと言っていました。

お米をたいて、おかゆをさらにつぶし、小
さいさいを食べさせるのではなく、なめさ
せるようにしていました。ミルク以外のお米

の味をわたしに教えるために、毎日、小さじ
 一ぱいのおかゆを作りつづけたと書いていま
 した。わたしがおなかをこわさないように少
 しずつおかゆから、やわらかいお米を食べる
 様子が何ヶ月にもわたって書かれているのを
 見て、お母さんがわたしのためにがんばって
 くれたすがたが分かりました。お店で買った
 物を食べた記ろくがありました。わたし
 しには、まねがでさなうと思ひました。

おかあさんは、よく、

「ごはんは、おくすりだからし、かり食べな
 さい。」

と、言ひます。

わたしは、生まれてから今まで、大きなび
 う氣をしたことがありません。それは、お母
 さんが毎日、ごはんを作ってくれていゝるお
 げだと思ひていゝます。今日も、わたしは、
 べ物を作ってくれていゝる方々に感し、して、
 「いただきます。」
 と言ひます。